南方視察日記

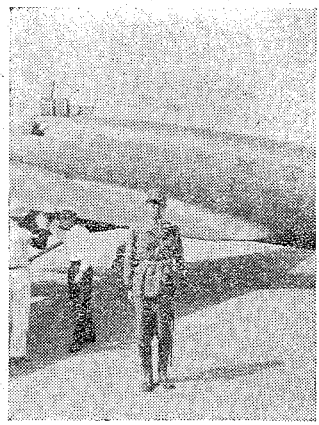
井關正雄

馬來に於ける陸上交通の應急對策並に其の具體的實施方法の調査を爲すべき命を受け鐵道省から三人、民間側から四人、それに內務省から自分と合せて一行八名、三月末羽田を出發約二ヶ月半の調査旅行をなし六月中旬空路歸朝した。その時の見聞の日記を順序もなく書いて責をふさぐことにする。

三月二十七日

午前三時起床。軍裝に威儀を正し故き母の寫眞に別れの挨拶を告げ曉闇の中を出發する。始めて吊つた腰の軍刀が歩くのに邪魔になる。羽田には東橫の社長始め會社の人々が多勢見送りに來て中々賑かだ。定刻午前六時四十分離陸、空は晴れてゐるが風强く肌寒い。乘機は白山號といふMC20双發十一人乘の大型機で搭乘者は我々一行八名のみ、特別仕立の樣なものだ　渥美半島あたりから次第に雲が多くなり、機の動搖烈しくだん〳〵氣分が悪く瀨戸內海の美しい眺めも樂しむことが出來なかつた。福岡着〇時〇〇分、簡單な稅關の檢査（紙幣の持出申告）を受け、給油の上十一時二十分雁ノ巢飛行場發上海に向ふ。海上の飛行は極めて穩かで氣分も餘程よくなつた。午後〇時上海大場鎭飛行場着、今日の豫定は臺北迄飛ぶことになつてゐたが、途中の氣流が悪いといふので缺航となり上海に泊ることになつた。大場鎭飛行場は上海の街からは可なり離れた所に在り附近は一面の平野で所々に部落があり、青々とした麥畑や黃色い菜の花畑に圍まれ、今見れば極めて長閑な平和な農村だ。此處があれ程の激戰のあつた土地とはどうしても思はれない。途中林大作聯隊長の戰死した跡を弔ひ表忠塔を遙に拜んで上海の街に入る。ホンキウ路とか北四川路とか我々の耳になじみ深い街も、想像してゐたよりは遙に貧弱な汚い街だと思つた。只其の中に海軍陸戰隊本部の建物のみは嚴然と四方を

壓し實に頼もしげに思はれた。宿はガーデンブリッヂの前にあるアスターハウスだ。之は敵產で中々立派なものだ。夜鐵道の先輩で今國民政府の顧問をしてをられる加賀山さんや日通の支社長等が集つて歡迎の晩餐會をしてくれた。內地では喰べられないほんたうの支那料理を戴き非常に甘しかつた。加賀山さんはしきりに上海から昭南迄直通鐵道を敷設することの必要を說かれてゐたが一日も早く之が實現して東京から昭南迄一週間位で行ける日が來ることを期待してやまない。



軍裝せる筆者

川向ふを見物したいと思つたが夜の一人歩きは禁じられてゐるし、今日は又特に海軍の演習とかで交通を遮斷し一歩も宿を出ることが出來なかつた。大東亞戰爭が始まつてからは租界ももう少し明朗になつてゐるかと思つたが、案外空氣はよくない樣だ。かういふ所が或は上海の上海たる所以かも知れない。

三月二十八日

朝起きたら小雨だ。豫定より四十分ばかり遲れて九時四十分大場鎭飛行場を離陸臺北に向ふ。空から上海のあらましを見たが、やはりもう少しゆつくり市內を見物したかつた。昨日と異り今日は極めて穩かな飛行で氣分も惡くならず有難かつた。十二時五十分臺北着、此處は去年の今頃海南島に行く爲に始めて飛行機に乘つた思ひ出の地だ。その時の美しいエアガールも未だ辭めずに勤めてゐる。檢疫、稅關の檢査、寫眞機の持出證明等夫々の手續を終り二時十分臺北出發廣東に向ふ。午後五時半頃香港上空を通過空から見る香港島は誠に美しい島だ。島の周圍をグル〳〵廻つて頂上に達する立派な道路を造り、それに沿ふて赤屋根白壁の美しい住宅が綠の樹蔭に點々と見える。鋪裝されたループ道路も見える。ビクトリアポイントや九龍の市街も大して破壞の跡も見えず立派な街らしく見えた。昔學校で道路の講義を聽いた時「將來道路の仕事をする者は若し洋行が出來なければせめて香港の道路だけでも見學する必要がある」と先生に敎へられた事があつたが、その香港も旣に我國のものとなつた。道路の技術に於ても彼等から學ぶことよりもむしろ彼等に敎へる立場になつた。感無量である　午後六時十分廣東飛行場着、廣東ホテルに泊る　廣東は其の周邊餘り遠くない處に敵が居るといふ譯で何となく人氣が惡い。街も餘り綺麗ではない　軍票はなし夜は勿論出歩くことも出來ず東京にはがきなど書いて早く床に入る。

三月二十九日

朝早く起きてバンドの方へ散歩する。珠江は幅四五百米もあらうか、水は割合に綺麗で流れも可なり速い。簡單な横棧橋を出し東亜海運や内河航行會社の船をつけてゐるが勿論大きい船はつけられない。此處に築港して香港の繁榮を奪はうとした孫文の雄圖も今は空しくなつた。河岸に近く愛群ホテルといふのがあるが、之は二十階位の高さで馬鹿に大きいものだ。上海にも有つたがデルタ地帶で地質の好い處とは思はれぬのによくもこんな大きな建物を造つたものだと思ふ。

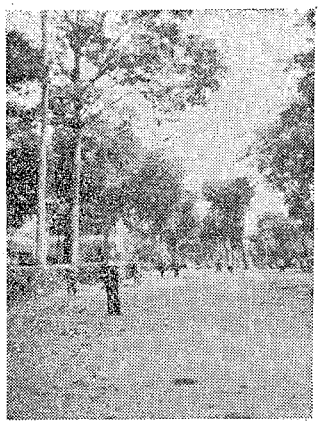
十時頃飛行場に行つたが、スコールがやつて來て出發が出來ない。廣東の飛行場も街から五、六粁離れた處に在り周圍は全くの田園だ。農夫が水牛を使つて田植の準備をしてゐる。處々に日本の櫻に似た美しい花が咲いてゐる。リラ又は廣東櫻と云ふのださうだ。去年も今年も内地の櫻は見ることが出來なかつた。この美しいリラの花を見て一寸郷愁を感ずる。郊外の住宅も洋風の立派なのが有るがまだ住主が歸つてゐず荒れはてゝゐる。今日は革命七十七烈士の慰靈祭で小中學生や女學生等が隊伍を組んで街を行進してゐるのに出會つた。その服裝は殆どアメリカのボーイスカウトの格恰だ此處にもアメリカ崇拜の一つの表れがある。

雨は霽れたがエンヂンが少しおかしいといふので、三十分ばかり試驗飛行をする。午後一時愈々出發。廣東を出て間もなく機は雲の中に入り一寸先も見えなくなつた。まだ海上には出てゐないので、若し山へでもぶつゝかるのではないかとやたらに心配になる。飛行機はグン〳〵高度を増してゐるらしく空氣は次第に冷たくなり呼吸も多少苦しくなつて來た。容易に雲の中を抜け出ることが出來ない。廣東附近はよく航空機の事故のある處で去る二十五日も鐵道省の某氏がこの附近で行衛不明になつたといふ樣な話を聽いてゐるので非常に心細くなつた。然しいくら自分でやきもきしてもどうにもならぬので、パイロットに全幅の信頼をおくより仕方がない。暫くして漸く雲の中を抜けて海上に出た時は全くホッとした思ひだつた。海南島は空の上から眺めて佛印のツーラン迄眞直に飛ぶ。ツーランは小さい飛行場だが西貢との中間にある給油地として大切な處だ。ツーランから先は南洋特有の入道雲が多く之を避ける爲に海岸を廻つたり或は高層に出たり、パイロットは隨分苦心したらしい。暫くジャングルの上を飛んで午後八時頃西貢飛行場に無事着くことが出來た。東京を立つて僅かに三日で約五千粁を翔破したわけだ。宿は日本ホテル（元のホンルマヂエステック）愈々第一線に來た感じが深い。

三月三十日

西貢は綠色濃き美しき街である。特に總督官邸を中心に山手の佛人住宅區域は美しいと思つた。ゆつたりした街路、見上げる樣な大きな並木、前庭を充分に廣くとつた住宅、處々に適當に配置

された廣場や小公園等、去年見た河内と共に熱帶地方に於けるテイピカルな植民地都市といふ感じがする。然し佛蘭西人は愛想の悪いことおびたゞしい。佛人の店に入つてもソッポを向き何か買はうとしても使用人の安南人を通じてゞなければ直接には話もしないといふ風である。勿論、之は言葉の通じないといふ關係もあるだらうが、我々日本人を野蠻人視する感情がまだ拔けない爲ではなからうか。之に反し安南人の我々に對する態度は極めて親しみ深いものだ我々は同じアジア人同志である、同色人であるといふ氣安さが何かにつけて感じられる。只いかにも長い間虐げられた民族として潑溂たる氣魄に缺けてゐるのがもどかしく感じられる。佛印二千三百萬の原住民がアジア復興の眞意義に眼覺めて我々の新秩序建設にほんたうに協力し得るの日は果していつだらうか。



西貢總督官邸附近道路の落葉掃き

西貢には旨しい果物が多い。果物の王と謂はれるドリアン、女王と謂はれるマンゴスチン等市場に山を爲してゐる。ドリアンを賣つてる店は五六間も前からその特有の臭ひで判る。尾籠な話だが、其の臭ひたるやまるで人糞の樣な臭ひで、ドリアンの皮を剝いた廻りには蠅がワン〳〵唸をたてゝたかつてゐる。いかに王樣でも始めての者には一寸手が出ない。値段も割合に高く、大きい眞桑瓜位の大さのものが一個一圓五十錢位である。餘り臭いのでホテルに持ちこむのもどうかと思ひ、さればといつて外で喰べさせてくれる店も知らず、とうたうドリアンだけは喰べず女王樣の方は

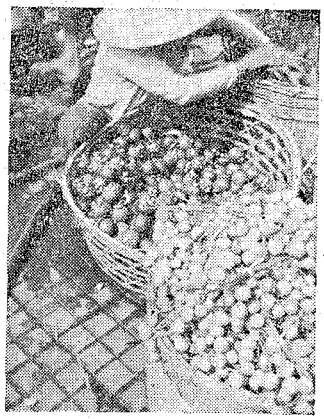
果物の王ドリアン（西貢）

に了つたが、少し殘念な樣な氣がする。之に反し、見た感じと謂ひ匂ひといひ又甘酸適度なその味ひといひ正しく女王樣の氣禀を備へてゐる。歩道の並木の樹蔭に安南の女がこのマンゴスチンを山の樣に籠に盛つて一つ二錢位で賣つてゐる。ホテルの食堂でも盛に喰べさせてくれる。赤い皮に包まれた眞白な果肉、そして舌に載せると蕩ける樣なあの味はひはいつ迄も南方の

旅の思ひ出として殘るだらう。

四月二日

日本時間 九時五十五分（泰時間七時五十五分）盤谷驛に着く。鐵道省の山中技師等に迎へられ兵站旅館タイランドホテルに落付く。此處は街の中心から可なり離れた住宅街にある靜かなホテルだ。盤谷の街の第一印象は鄙びた街といふ感じだ。然しホテル附近は綠の樹が多くバラに似た紅や黃の花盛りで日本の初夏を偲ばせる。ホルテで鐵道の淺井技師や大使館一等書記官の高瀨君、それから國際觀光局の岡本事務官榎本屬等に紹介される。高瀨君は嘗つて學校を出た當時鎌倉で隣合つて住んだことがあり、それ以來の舊友で非常に懷しかつた。我々は着いた日から出發の六日迄どんなにこの人達のお世話になつたかわからない。バーツ（金）の交換から自動車の提供、各地の案內や買物に至る迄全く恐縮するばかりだ。厚く御禮を申上げて異鄉で活躍してをられる各位の御健康を心からお祈りする次第である。



ンチスゴンマ王女の物果

ホテルで少憩の後晝食をすまして押火技手の案內で新埠頭を見學する。これは數年前懸賞募集に一等當選となつた日本の設計に基き白耳義の會社が施行したもので、盤谷の街から五、六粁下流チャウフラヤ河の左岸に沿ひ延長一、〇〇〇米ばかりの岸壁が出來上り、上屋も十五米位のスパンのものが約三十棟位竣功既に供用を開始し今度の作戰には非常に役に立つたといふ。原設計には船溜りを掘り込む樣になつてゐると思つたがそれは未だ着手されてゐなかつた。仕事の出來榮も惡くはない。只この岸壁に來る迄の航路が淺いので、大きい船は河口（パットナム）で沖荷役して半分積荷を下してから潮待ちして入港するのださうだ。それで新埠頭の築造と同時に航路の浚渫が當然問題になつたのだが、この沖荷役をするのが華僑で、泰の高官中にもこの華僑の勢力に支配され浚渫に反對する者があつて容易に國論の一致を見ず困つてゐたが、最近漸く專門委員會に附して浚渫しても宜しいといふ結論に達したといふことだ。折角立派な岸壁を造つても航路の浚渫をしなければ何にもならぬこと位素人にも自明の理であるのに、簡單に片づけられぬ處にこの國の政治、經濟關係の複雜さがあるのだらう。

新埠頭を見てから車を轉じてパトナムを見物する。此處はバン

コックから三十粁ばかり南メナム河の河口である。幅六米ばかり殆ど直線のアスファルト鋪裝道路が出來てゐる。大東亞戰爭當時は我が皇軍の精鋭がこのパトナムに上陸しこの街道を盤谷に向つて堂々と進軍をしたさうだ。

今でこそ泰も我國の同盟國としてあらゆる點で我れに協力してゐるが、昨年十二月八日迄は隨分ひどいものだたつさうだ。例のラチャダムヌーンにある國際觀光局の事務所の如きも日本人なるが故に貸してはくれなかつたし、今日我々がしてゐる樣な自由な行動は一つとして許されなかつた。パトナムに上陸した兵隊も一時は海岸に砲列を敷いて盤谷攻擊の態勢をとらざるを得なかつた。然し最後の瞬間に於て平和裡に進駐を見ることの出來たのは一にピブン首相の明斷によるもので、誠に同慶に堪へぬ次第である。シンガポールが陷落しラングーンが落ちた今日となつては完全に國論も統一され全面的に我國に協力してゐるが、それでも尙ほ實際に日本の實力を認識してゐる者は極少數の者だけで、大部分の民衆は世界で一番强い國は獨逸で次は泰で、そして日本はその次だといふ程度の認識しか持つてゐないといふ話を聽いては全く呆れるより外なかつた。

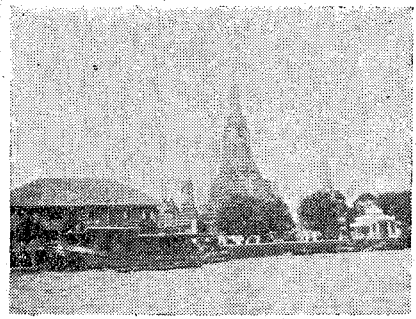
一體泰の產業は農業を主とし、外國に輸出するものとしては米とチーク位のもので、日用生活品（雜貨）や精製品はすべて英國其の他の外國から輸入してゐたので、今後これ等のストックが無くなれば必然的に物價の高騰と生活の困難を來すことは必然であるが、その場合果してその艱難を突破して行けるかどうか。日本は如何に之を指導して行くべきか、之は今後の大きな問題であらう。

佛印から泰に入つて特に目につくことは、泰人は服裝を極めてキチンとしてゐることだ。佛印では殊に佛蘭西人は皆ショウトパンツに開襟シャツ即ち防暑服の輕裝でいかにも涼しさうだが、泰人はすべて長ズボン長袖の洋服をキチンと着、女は必ず帽子をかぶつてゐる。之はピブン首相の提唱してゐる新生活運動の一つの表れである。見た眼には暑苦しさうだが新興國家の熱意が見えて頼もしい。それに官吏や兵隊は大抵昨年の佛印との戰爭に於ける從軍徽章を胸間に下げてゐる。之も獨立國民としての一つの大きな誇であらう。兎に角安南やカンボチャと違つて俺は完全な獨立國家だといふ雰圍氣が至る處に感じられる。

四月三日

國際觀光局の岡本事務官の案內で王宮とワットプラキオを見物する。王宮はチャックリン王宮と謂ひ現王室チャックリン王家の始祖の造營したもので、今から約百五十年位前の建築だといふ。金光燦然ときらめき誠に美しいものである。この王宮に隣合つてワットプラキオ（ワットといふのは寺の意）といふ寺がある。之は王室の菩提寺でやはり王宮と時を同じうして出來たものだ。金

色の塔を中心に大小伽藍誠に眼にまばゆい建物である。金色の塔は伊太利製のギヤマンを用ひ（二糎角の小さなギヤマンの片を張りつけたもの）床はすべて大理石で張りつめてある。廻廊には佛の功德を表した壁畫がかゝげてある。本堂で武運長久、惡疫退散の灌水をして貰つて寺を辭す。この王宮附近は所謂官廳街で色々の役所がある。又附近に新都市計畫を樹てラチヤダムヌーンといふ幅五十米ばかりの街路を造つてゐる。この街路は歩道の幅各々九米、車道は幅十五米宛を左右兩側に設け、中央には幅三米の安全地帶を設置する。之は單に街路を造るばかりでなく、街路に沿ふ建物も大藏省の直營で三階建の統制ある建物を造り新興泰の意氣を誇示してゐる。この都市計畫事業は華僑に對抗して純粹の泰人のみの繁華街を造る意圖の下に計畫されたのださうだが、見た處店など到つて貧弱だ。一體泰人は其の大部分が農民か然らずんば官吏か僧侶で商人とか實業人といふものがない。經濟上の實權は全く華僑に握られ民間資本といふものがないのだ。それで華僑を除いて泰人だけの店を作らうとすれば勢ひ官吏の内で多少金の有る者がやるより他に店を經營する者がない。ラチヤダムヌーンに在る盤谷唯一の泰人の料理店ミウバーといふのも大藏省の建築課長の經營だといふことだし、最近の新聞ではピブン首相が炭屋を出したと報じてゐる。このラチヤダムヌーンの建物は前にも述べた通り大藏省で造つて之を民間に貸してゐるのだが、その家賃は間口二十米奥行十米位の店屋で二階の事務室を含み月百バーツ（一バーツは當時一圓六十錢位、今はパーになつた）間口がこの半分のもので五十バーツといふから非常に廉いものだ。三階は全部アパートになつてゐて之は又別である。日本の都市計畫は單に街路を築造するを以て終れりとしてゐるが、沿道の建物も全部街路に應じて統制してゆくあたり中々進んだやり方だと思ふ。



バンコクツ市内ワツトエチトーンの塔

四月六日

愈々盤谷に別れを告げて昭南に向ふ。列車は軍用列車だが、客車は一臺だけで之に三十名ばかりの兵が乘つてをり我々の席がないので特に貨車を一臺增結して貰ひ、之に帳を敷いて寢ることにする。石田部隊の杉山中佐や觀光局の岡本事務官等が見送つて下さる。盤谷昭南間は鐵路一、九二〇粁、戰前は所要時間五十二時間で急行列車の運轉があつたが、今は一〇〇時間位かゝる。食ふ

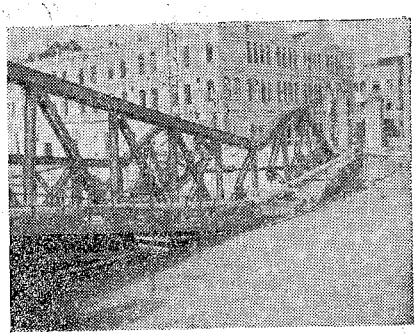
ては寢、覺めては喰びうつら〳〵と六百粁ばかりを貨車で過してチュンボンといふ驛に着いたのが七日十七時頃だつた。此處で夕食の給與を受ける。沿線の給食は何處も決つて味噌汁と白飯だけだ。チュンボンはもう地峽に近い處なのでそれとなく運河の豫定地を探し眺めたが判らなかつた。八日朝ツンソン驛着朝食の補給を受ける。又豚汁だ。五時と言つてもまだ眞暗い。一時間半停車。薪と水を積み込む。七時三十分發車單調な平原を過ぎて十六時頃國境に近いハジヤイ驛に着く。二十三時迄汽車は出ないといふので停車場司令部に行つてシヤワーを浴びさして貰ひ三日間の汗と埃を流した。夕食は街の支那料理店で喰べる。一寸した街だが大部分華僑である。商人は全部華僑だ。華僑の浸透力は誠に恐るべきものだ。

馬來最初の驛パダンバザールに着いたのが九日の曉方、此處で泰の機關車と日本の機關車を交換することになるのだが、日本の機關車の來るのが遲れて九時間ばかり待たされ午後一時頃漸く出發することが出來た。此處からは愈々我新領土である。沿線に働いてゐる人達も皆我同胞だ。感激の一入深いものがある。馬來に入ると泰と異り沿道には水田ありゴム林あり相當よく開發されてゐるのが判る。アラウといふ小さい驛の前にはフットボールの立派な運動場があり驛も綺麗だし大きな相思樹が植ゑられ、綠の芝生をめぐらしいかにも明るい感じがする。そしてどこの驛に行つ

ても日本人の驛長が居て原住民の驛員を使つて鐵道の運營をやつてゐるのが懷しくも嬉しくもある。「ヤア御苦勞樣」と言つて煙草や繪はがきの慰問品を差上げる。驛長さんは汽車の出るのがいかにも心殘りらしくいつ迄も〳〵手を振つてゐる。

四晩目の宿を貨車の中で眠り難い一夜をあかし眼の覺めた時は汽車はイポーに停つてゐた。イポーは人口五萬餘、ペラ州第一の都で錫鑛業の中心地である。一體に佛印や泰を通つて馬來に來て感ずることは、馬來は佛印や泰に比べて沿道がよく開け都會もあちらこちらに相當なものがあり、鐵道、道路等がよく設備され、既に開發された國だといふ感が深い。八時三十分イポー發フラフラに疲れて二十時十分クラムプールに着。久し振で兵站宿舍ホテルマヂエステックに泊る。寢臺はあるが藁蒲團がなくスプリングの上に一枚の毛布を敷いて寢る。それでも貨車の中に寢るよりはましだ。クラムプールに二晩泊つて四月十二日愈々最後の目的地昭南に向つて出發する。こんどの汽車は鐵道の好意で一等車を出して貰つた。之は冷房裝置がしてあり窓硝子等も紫外線除の色硝子を使つてある。昨日の乞食は今日の大名だ。然しクラムプールで風邪を引いたかそれともデング熱にでも罹つたか、八度五分の熱を出し終日寢て過す。明くれば十三日午後一時豫定通り汽車は昭南驛に着いた。空路五千粁、陸路二千五百粁、はるけくも來つるものかなである。昭南の街は戰禍の跡も殆どなく住民は安

居樂業全く戰前の繁榮をとり戻してゐた。然しこの街も結局華僑の街だ。大陸の延長だ。どこ迄行つても華僑ばかり何といふ浸透力だ。全く驚くべきだ。宿は街の東三粁ばかり海に臨んだ南明閣といふ處である。此處は戰前はシイビユウホテルと謂ひ昭南第一流のホテルだつた。海に臨み椰子の林に圍まれ中々景色のいゝホテルだ。到着早々遂にデング熱に罹りこのホテルで一週間ばかり寢込んで了つた。



破壞されたる道路橋（クラムプール市）

四月三十日

約二週間の豫定で地方視察に出かけることになつた。馬來に在つた自動車は戰爭の爲め大概破壞され現に使用し得るのは非常に少い。又ガソリンも極めて不足の狀態である。南方に來てガソリンが是程不自由だとは想像もしなかつた事程左樣に規制されてゐる。その少い自動車の内から特に二臺の車を提供して貰ひ、又ガソリンは行く先々の州廳に無理にお願ひして頒けて戴くことにし、一枚のロードマップを頼りに怪しげな英語でマレー人の運轉手を指圖しながら昭南から彼南迄八〇〇粁の道をドライブしやうといふのである。

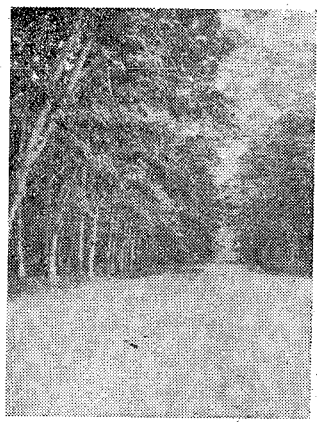
第一日は昭南からマラッカ迄。途中ジョホールバルに伊丹知事を訪ひ州政治の概要を伺ひ、知事さんの案内でサルタンの舊邸及新邸を見物する。（サルタンは目下ジョホールバルから數哩離れた別莊に居つて舊邸も新邸も空家である）新邸は最近竣功したばかりで、將に移轉されやうとした時戰爭になり未だ一度も住まはれぬといふ話だ。小高い丘の上に建ち大して大きくはないがプールがあつたり、室内の設備調度等極めて豪奢なものだ。然し舊王朝としての特有の文化を示す何物もなく全く近代的歐米風の邸宅である。多分ルーマニア人である王妃の御趣味でもあらうか。王家は一族十三家族もあり戰前は其生活の爲に月々四萬弗乃至六萬弗の金を政廳から支出してゐたといふ。ジョホールバルから海岸を通つてマラッカ迄約二百二十粁、途中パトバハとマウルに二ケ所の渡船場があるが其の他は極めて坦々たる鋪裝道路である。鋪裝はすべてアスファルトマカダムであるが、海岸の砂原の中だけ一部混凝土鋪裝があつた。午後六時頃マラッカに着く。マラッカは馬來に於ける白人侵略の最初の土地だ。即ち一五一一年葡萄牙人に依つて始めて占領せられその後和蘭と英國により屢々爭奪の的となつた土地である。今は人口二萬五千位餘り重要な土地ではない。葡萄牙人の造つたと云ふ古い城壁の跡や嘗つて日本にも來た

ことのある聖ヂヴエールの骨を埋めたといふセントポール寺院等を見物する。

五月三日

クララムプールの街は綠の色濃き森の都である。何とか云ふ河を挾んで其の西は商店街（大部分は華僑の店）で、河の東には聯邦州政府（今は軍政部支部卽ちセラムゴール州政廳）や市役所郵便局等の官廳を始め公園其の他高級住宅があり、山手にはゴルフ場が三ケ所あるといふ。ホテルもホテルマヂエステック及鐵道ホテルを始め相當なものがあつた樣だ。ホテルマヂエステックは今兵站宿舍になつて數人の兵隊さんによつて管理されてゐるので、部屋は埃と蜘蛛の巢だらけであり、風呂場には落葉が溜つてゐるといふ有樣だが、之を民間の者にでも經營させれば立派なホテルになると思ふ。この街の郊外二哩半ばかりの處にマレーゴム研究所（The Rubber Reserch of Malaya,）がある。一日之を視察することが出來た。戰前は英人が二十七名も居たといふから英國としても可なり力を入れてをつた研究所である。今は三谷さんといふ州政廳のゴム課長が研究所長を兼ね原住民の研究員を以て研究を續けてゐる。三谷さんは御多忙の爲め手が離せず係の印度人を特に案內につけて下さつたが、英語による說明では中々判り難く又質問したいことも思ふに任せず隔靴搔痒の恨はあつたが大に得る所があつた。研究所の部門はゴム製造方法の研究や製品の品

質試驗は元より、ゴムの木の適性土壤の研究や病害蟲の研究其の他ゴムに關するあらゆる部門に亙つてゐるが、特に注意と興味を惹いたのは道路鋪裝にゴムを使ふ研究とルバーオイルの製造である。この二つは從來はむしろ第二次的の研究題目として取扱はれて來たのだが、今後マレーの餘剩ゴムを如何に處理するかといふ重大問題を解決する方法としてルバーオイルを採ることゝ道路鋪裝に利用することの研究は最も大切な問題だと思ふ。



マレー國道沿のゴム林

ゴム鋪裝に就てはこの試驗所でも餘り深くは研究してゐなかつた樣だ。一九三三年クララムプールからポートスウエッテンハムに至る道路に延長四哩半ばかり試驗鋪裝をしたといふ記錄と寫眞に就て說明を聽いたが、其の大要はラテックス（ゴム乳液）に約二〇%のアルミナセメントを混合し、よく攪拌し之を一平方碼に付一ガロンの割でマカダム基礎の上に撒布したものだといふ。之は表層のゴム層が基礎と密着せず時日の經過に從ひ表層のみ剝離し

て今では現場には殆ど痕跡も止めず、只試驗所に製離した表層の殘骸が保存されてあるに過ぎなかつた。然しゴムの鋪裝はもう少し研究すればきつと成功すると思はれるし、又アスファルトの不足してゐる今日多少單價は高くなつても南方の餘剩ゴムを利用して鋪裝に成功せしむる事は我々道路技術者の責任であると思ふ。誰かこの道のエキスパートをこの試驗所に派遣して研究して貰ひたいものだと思つた。

次にルバーオイルであるが、之も從來は全く屑ゴム處理の一方法として副業的に研究されたに過ぎなかつたが、是こそ今後最も重要な研究題目になるものと思はれる。今試驗所でやつてゐるゴム油採取の方法は極めて簡單なもので、ガソリンの空罐に屑ゴム（屑ゴムといふのは乳液採取の時樹皮に附いて固つたものや製品の切屑、又は生ゴムの腐れかけたもの等何でもよい）を入れ、之を密閉し下から薪で加熱し依て生ずる瓦斯をパイプで水中を通して冷却すれば褐色の原油が得られる。その生產の割合は屑ゴム十二封度から一ガロンの原油が得られ、ドラム罐一箇で六時間に十ガロンの生產能力がある。斯くして得られた原油は鑛油の原油に似た性狀を有し之を蒸溜すれば大體次の四種の油が得られる。

一、ガソリン　之はB.P.五十度以下で蒸溜したもので、比重〇、六九二。多少黃色を帶び透明に近い液で、自動車用ガソリンに適するは勿論加工すれば航空用ガソリンにもなる。一ガロンの原油から約三〇%のガソリンが採れる。

二、ペトロール　B.P.五十度以上百度以下で分溜したもので、比重〇・七五八。自動車用ガソリンに適し前者同樣原油一〇〇から三〇の割合で採れる。

三、ターペンテイン　B.P.百以上百五十度迄に分溜したもので、茶褐色を有しペイント等の溶劑に用ふ。原油の二〇%。

四、アンチマラリヤオイル　最後に殘つた濃褐色の重油で、之はマラリヤ蚊を殺す爲に撒布劑として有效である。原油の二〇%。

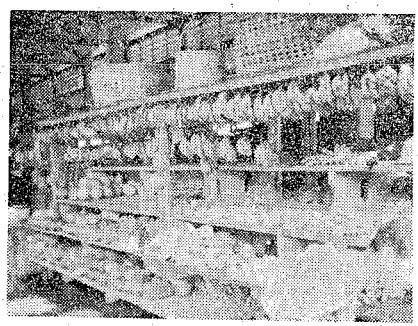
マレーのゴムは戰前年產五十五萬噸乃至六十萬噸と稱せられ、大部分は米、英に輸出されてゐた。日本の需要量は僅にその二割程度に過ぎないから差當り四十萬噸前後のゴムが過剩となる計算だ。實際馬來に來て驚くのだが、よくも根氣よくこんなに多くのゴムを植ゑたものだと思ふ。何處へ行つてもゴムを見ない處はない。昭南から彼南迄約八〇〇粁の道をドライヴしたが、始めから終り迄ゴム林の中ばかりを通つたので少しも變化がなく變つた土地の印象が殘らない。それ程ゴムが多いのだ。馬來の總人口五百四十萬の約八分の一の人間は多かれ少かれゴムに依つて生活しゴム園に働いてゐた苦力だけでも三十七萬を算するといふから、是等の苦力に食を與へ、有り餘るゴムを如何に利用するかは將に當面の重大問題である。勿論ゴムをゴムとしての利用の途を開き其

の保有量を增加してをくことも必要であらうし、又ゴム園を改植し他の有用植物に轉換することも必要であらう。然し夫等のことは二三年の間に解決される樣な簡單な問題ではなく少くも數年永ければ數十年を要することゝ考へられる。從つて當面の問題としてこのゴム油を採り苦力の失業を防止し併せて燃料國策に貢獻することは將に一石二鳥と謂へるだらう。自分の計算では一ガロン二圓乃至二圓五十錢位の生產費がかゝりガソリンとしては多少高いものになるけれども、石炭液化の樣な大規模な工場設備や多量の資材を要せず手輕に實施される處に非常に强味があると思ふ。例へばドラム罐一罐で一日二十ガロンの原油を採るものとすれば三千箇のドラム罐と十二三萬噸のゴムがあれば一ヶ年に約九萬噸の原油卽ち六萬噸のガソリンが採れる。之は二萬臺の自動車を動かすに充分であり馬來の自動車はゴム油のみによつて運營し得ることになる。而して是位の設備をすることは必ずしも机上の空論ではないと思ふ。

クララムプールの附近にはこのゴム試驗所の他にバッアランの炭山がある。是はマレー唯一の石炭山で戰前は年產四十萬噸位出してゐた。發電所其他重要設備は大部分壞されたが三菱鑛業の手で復舊し既に稼行してゐる。二千人位の苦力を必要とする處へゴム園の失業苦力が皆この鑛山に集つて來るので、三日に一度位しか使へぬ狀況だといふ。附近には石灰山もあるので若し日本の遊休設備を持つて來ることが出來るならセメント工場も造り度いといふ話だつた。

五月五日

イポーはペラ州第一の都會である。この附近は錫の產地でペラ州だけで戰前八萬五千噸位出してゐた。その錫の中心地として發達したのがイポーである。街の周圍に餘り高くない山を廻らし、鴨川に似た綺麗な河が街の中央を流れてゐる。街衢も整然と碁盤目になつて小京都の觀がある。河のほとりに祇園會館といふカフエがあつたが、是も京都を眞似たものか？　日本人も戰前は百三十人位居つたさうで、日本名の店も二三軒閉されたまゝ殘つてゐた。市場の大きなのがあつて果物、肉、野菜等が實に豐富だ。一寸東京の人達に見せてやり度い樣だ。



イポー市市場內果物店

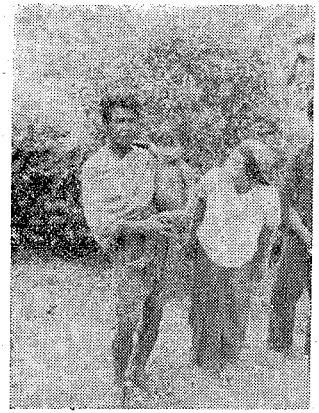
午前九時半イポー發タイピンに向ふ。途中は相變らずゴム林ばかりである。タイピンは餘り大きい街ではない。日本の輕井澤に

似た高原で、馬來でも割合に涼しく氣候の好い處なので政廳を置いたものらしいが今では新興都市イポーに壓せられた感がある。政廳も近くイポーに移るといふ話だ。タイピンの政廳で久保田知事に會ひ錫やゴムの話を聽く。錫はペラ州だけで戰前八萬五千噸位の鑛石を出してゐたが、發電所や浚渫船がすつかり壞されたので今年度はその何分の一しか生産が困難だらうといふことだ。尙ほ知事はゴム油で自動車を運轉してゐる話や重油の代りに椰子油（コ、ナツトオイル）で發電所を運轉してゐる話など色々と油に苦心してをられる話をされた。

ペラ州とウーズレー（今はペナン州）の境にクルアン河といふのがある。餘り大きい河ではないが道路橋も鐵道橋も共に破壞され、鐵道の方は假橋が出來て取りあへず之を通し本橋の復舊を急いでゐる。道路橋の方は二〇米位のポニートラス四連の內中央二連は河中に墜落してゐる。話によれば泥が深くて假橋も容易には架けられないから、鐵道の本橋の復舊を俟ち現在の鐵道の假橋を道路橋とする計畫なさうだ。此處が通れぬとペナンに行くに山手の方を大迂囘せねばならぬので特に鐵道橋の上を自動車を通さして貰ふ樣に村橋部隊長の許可を得て出發した。お蔭でこのクルアン河は無事に渡ることが出來たが、然しその先にもう一つ小さな橋が工事中でたうとうクリムの方へ迂囘せねばならず、其の爲に一時間餘も豫定より遲れてペナンの對岸プライの波止場に着いた時は午後の七時を過ぎてゐた。プライから彼南島のジョウジタウン迄は渡船で渡らねばならぬのだが、この渡船は午後の五時半が最終でもう今日は船は出ないといふ。然しプライには泊る樣な宿屋もなし一時途方に暮れたが、プライの驛の人が心配してくれて政廳のランチを出してくれることになつたので、自動車はプライに預け身體だけ彼南島に渡ることが出來た。プライの棧橋は鐵道に連絡しプライ河の河口から上流一粁位の處にあるのだが、もうあたりは薄暗く地形はよく判らない。彼南海峽は六、七浬もあらうか約四十分で彼南島ジョウジタウンの棧橋に着いたが、ジョウジタウンの街は眞暗で電燈はなく何が何だかさつぱり判らない。一緒に船に乘つた兵隊さんが彼南ホテルに案內してくれたので、先づ今晩の宿には困らなかつた。彼南ホテルといふのはもとイースタンアンドオリエンタルホテルと謂つた彼南第一のホテルで街から一寸離れた靜かな海岸に在り感じのいゝホテルだ。殊に兵站旅館でなく民間人の經營なので住心地も非常によろしい。食堂に行つたら四十位の年配の日本婦人が居て種々戰爭の時の話をしてくれた。此の人の話では昨年十二月八日戰爭と同時にペナンに殘つてゐた日本人男五十名は監獄に、女八名は日本人倶樂部に監禁されたが英軍は日本軍の猛攻に堪り兼ね十六日にたうとう全部撤退したので、直に出獄し日本人の手で治安の維持をなし且つ直に日本軍に連絡をとるべくアロースターに出發したが、連絡の執

れる日迄卽ち十八日迄爆擊は續いたといふ。實際彼南の爆擊は可なりひどく未だ取り片づけのすまぬ破壞されたまゝの建物も隨分眼についた。

この彼南ホテルには三日間滯在したがいゝ休養だつた。食堂のすぐ前は綺麗な芝生で其前は靜かな海だ。庭にはボンガローといふ香りの高い白い花やバラに似た紅い花など色々の美しい花が咲き亂れ。椰子や熱帶松など適當な木蔭を作つてゐるので、其のあたりに椅子をよせてボンヤリ海を眺めてゐると遠く六千粁の南に來てゐることも忘れ、なんだか熱海あたりに避暑にでも來てゐる樣な錯覺に陷るのだつた。食事も惡くなく朝のコーヒーや夕食に飲んだ一杯のソーダウイスキーは忘れられぬ思ひ出である。



カンチヤボンの夫人

彼南には錫の製錬所がある。三井鑛山の栗村技師が軍政部の囑託で製錬所長をしてをられるので、一日栗村技師の案內でこの製錬所を見せて貰つた。マレーの錫は殆ど全部この彼南の製錬所と昭南の製錬所に送られて製錬され製品は大部分アメリカに輸出されてゐた。一九四一年度に於ては彼南で五〇、〇〇〇噸、昭南で四〇、〇〇〇噸位の割合で製錬されてゐた。彼南に送られる錫鑛は非常に品位がよく大體七五%である。錫鑛石は砂鐵の樣な黑い細粒で四十二瓩宛袋に入れて運ばれる。最初に少量に含まれてゐる燐と硫黃を除き次に反射爐で石灰と石炭と共に重油で熱せられ、熔かされて品位九十九%の錫となるのだ。之も一個四十二瓩のバーにして輸出される。この工場は鑛石で八萬噸、製品で六萬噸位の能力があり、戰前は泰やビルマからも鑛石を輸入して製錬してゐたといふ。

この他彼南には有名な蛇寺や極樂寺があるが、是等に就ては既に屢々紹介されてゐるから省略することにする。

僅に三日間の滯在に過ぎなかつたが、色々懷しの思ひ出を殘して五月七日再び彼南海峽を渡り昭南への歸途に就いた。市廳舍の高い時計臺があたかも我々一行を見送つてくれるかの如く、いつ迄も消えやらず中空にそびえてゐた。